

LWC 指標利活用ガイドブックに関する Q&A

版数	2023-02 版
更新日	2023 年 4 月

※本指標は、デジタル田園都市国家構想の実現に向け活用することを目的としています。自治体間の優劣の比較やランキング付けなど、目的外での利用は厳に慎んでください。

※LWC 指標で採用する指標や分析手法については、今後も改善・改良を重ね、更なる進化を目指してまいります。

デジタル庁
一般社団法人スマートシティ・インスティテュート

目次

I.	Well-Being 指標（LWC 指標）について	4
	【Well-Being 指標（LWC 指標）】	4
	Q I -1 Well-Being 指標（LWC 指標）とは？	4
	Q I -2 行政運営に Well-Being 指標（LWC 指標）をいかす場合、低い指標、高い指標、どちらに注目すべきか？	4
	Q I -3 Well-Being 指標（LWC 指標）の主観・客観の KPI は、全て利用する必要があるか？	4
	Q I -4 本自治体では、以前から市民意識調査を行っている。それでも Well-Being 指標（LWC 指標）の主観指数（アンケート調査）は必要か？	4
	Q I -5 Well-Being 指標（LWC 指標）主観指数（アンケート調査）のサンプル標本数が少ないのではないかと？	4
	Q I -6 追加で自治体独自で行うアンケート調査（主観指標）は、どの程度の回答期間を設けたらよいか、目安などはあるか？	4
	Q I -7 追加で自治体独自で行うアンケート調査（主観指標）は、どの程度の頻度で実施すればよいか、目安などはあるか？	4
	Q I -8 ガイドブックの ActiveQoL という調査について、インスタント版とスタンダード版の 2 種類があるようだが違いは何か？	5
	Q I -9 ガイドブックのアンケート設問一覧表にある、追加補足設問とは何か？	5
	Q I -10 各 KPI の偏差値や各因子の指数は、どのように計算しているか？	5
	Q I -11 指定の Web サイトからダウンロードした Well-Being 指標（LWC 指標）客観指標データのうち、一部のデータが欠けているが、問題はないのか？	5
	Q I -12 環境共生指数、自然景観指数、都市景観指数など、〇〇指数とはどのようなものか？	5
	Q I -13 Well-Being 指標（LWC 指標）の客観データは参考にはなるが、自治体の実態を表すにはデータが不十分ではないか？	5
	Q I -14 追加で自治体独自のアンケート調査（主観指標）を行う場合は、どのような方法（Web か郵送か）で実施すればよいか、推奨する方法はあるか？	6
	Q I -15 RESAS とどう違うのか？	6
	Q I -16 Well-Being 指標（LWC 指標）とスマートシティ施策 K P I 設定指針との関係は？	6
II.	Well-Being 指標（LWC 指標）の運用方法	6
	Q II -1 Well-Being 指標（LWC 指標）の客観データを活用して、自治体のランキングを付けても良いか？	6

QⅡ-2	今回のデジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプ Type 2 / 3）には申請をしておらず、本市にとっては時期尚早かと思っています。そういった状況でも Well-Being 指標（LWC 指標）の活用はできるのでしょうか？	6
QⅡ-3	市民の Well-being を測るために、自治体として準備するデータはありますか？	7
QⅡ-4	Well-Being 指標（LWC 指標）を利活用する場合に、費用は掛かりますか？	7
QⅡ-5	市民が、より Well-Being 指標（LWC 指標）について深く理解するためにはどのような取組が効果的ですか。	7
QⅡ-6	Well-Being 指標（LWC 指標）を担当する職員も Well-being 等を学習する機会が必要だと感じています。Well-Being 指標（LWC 指標）を担当する職員向けの勉強会等は開催予定でしょうか？	7
QⅡ-7	Well-Being 指標（LWC 指標）に含まれるデータの更新頻度はどの程度か？	7
QⅡ-8	行政以外にも使える人はいるのか？	7
QⅡ-9	行政以外の人を使う場合のルールは。基礎自治体を經由した申請になるのか？	7
QⅡ-10	Well-Being 指標（LWC 指標）はいつまで計測を続ければいいのか？	8
QⅡ-11	総合計画や総合戦略の指標や KPI とどのように整合を取ったらいのか？	8
QⅡ-12	サイトを活用して作成した図の著作権は誰に帰属するのか？	8
QⅡ-13	近隣自治体や類似団体とランク付けされたくないが、方法はないか？	8
QⅡ-14	当自治体は都道府県であるが、Well-Being 指標（LWC 指標）の活用は基礎自治体だけのものに見える。都道府県での活用はどのように進めたらよいか？	8
III.	LWC 指標を用いた分析・活用方法	8
QⅢ-1	ガイドブックは読んだものの、ダウンロードしたデータの分析方法が分からない。デジタル庁やスマートシティ・インスティテュートからサポートいただけないか？	8
QⅢ-2	Well-Being 指標（LWC 指標）を活用するにあたって、IT やデータ分析などの特別なスキルは必要か？	8
QⅢ-3	Well-Being 指標（LWC 指標）を活用するにあたって、常に同じ因子だけに注目すべきか。	9
QⅢ-4	Well-Being 指標（LWC 指標）の結果と地域での実情とが合っていないように感じるが、なぜか？	9
QⅢ-5	他の自治体の Well-Being 指標（LWC 指標）の活用事例を教えてほしい。	9
QⅢ-6	外的要因によって KPI 指標数値が下がる場合もあると思うがその場合の考え方は？	9
QⅢ-7	公開された Well-being のアンケート調査を独自に行う予定はないが、客観指標のみを使用して分析することは可能か？	9
QⅢ-8	自治体の独自調査項目を指標に使いたい場合は、どのようにしたらよいか？	9
QⅢ-9	サイトに、複数回の指標を比較（Well-Being 指標（LWC 指標）が改善されているかを経年で計測）する機能はあるか？	9

QⅢ-10 当自治体はデジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプ Type 2 / 3）自治体に採択された。しかしながら LWC 指標ガイドブックにある人口コホート分析に当自治体がない。どのように分析すればよいか？	10
IV. 交付金について	10
QIV-1 デジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプ Type 2 / 3）自治体に採択され自治体が、デジタル庁より公開したアンケート項目を活用して自治体独自で取得したデータ（取得・集計したアンケート結果は）を、公表のタイミングは令和 5 年 3 月末まででよいか？	10
QIV-2 Well-Being 指標（LWC 指標）主観指数（アンケート調査）に交付金を活用する場合、何を対象経費としてよいか？	10
QIV-3 Well-Being 指標（LWC 指標）で測定された市民の幸福感が向上しないと、交付金返還を求められるのか？ KPI がよくなると交付金返還になるのか？	10
QIV-4 新たに自治体が独自で行う Well-Being 指標（LWC 指標）のアンケート調査やその分析などを、事業者に委託してもよいか？	10

I. Well-Being 指標（LWC 指標）について

【Well-Being 指標（LWC 指標）】

Q I-1 Well-Being 指標（LWC 指標）とは？

- 客観指標と主観指標のデータをバランスよく活用し、市民の幸福感を、指標で数値化・可視化したものです。
- ①主観的幸福感指標、②活動実績指標、③生活環境指標の 3 要素から構成され、市民目線での政策立案（EBPM）に役立てていただけることを目指しています。

Q I-2 行政運営に Well-Being 指標（LWC 指標）をいかにする場合、低い指標、高い指標、どちらに注目すべきか？

- 指標の高低に関わらずいずれの指標も自治体の特徴を表す情報です。どの指標に着目されるかは、各自治体のご判断です。

Q I-3 Well-Being 指標（LWC 指標）の主観・客観の KPI は、全て利用する必要があるか？

- 市民の Well-being を高める因子感の関係性について、俯瞰する過程・因子を探し出す過程（利活用ガイドブック P.25 以降にて説明）を踏まえ、自治体が重要と判断する因子を構成する KPI を選択してご利用いただけます。

【Well-Being 指標（LWC 指標）〈主観指標〉】

Q I-4 本自治体では、以前から市民意識調査を行っている。それでも Well-Being 指標（LWC 指標）の主観指数（アンケート調査）は必要か？

- 自治体の独自指標の活用を否定するものではありませんが、Well-Being 指標（LWC 指標）を是非活用してください。
- Well-Being 指標（LWC 指標）と、自治体独自で保有するデータ（市民意識調査等）を合わせた分析は、市民の幸福度の可視化に役立ちます。

Q I-5 Well-Being 指標（LWC 指標）主観指数（アンケート調査）のサンプル標本数が少ないのではないか？

- Well-Being 指標（LWC 指標）のアンケート調査の質問項目は公表しますので、先行調査のサンプル標本数が少ない自治体では、別途独自調査を実施することも可能です。
- デジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプ Type 2 / 3）採択自治体は、アンケート費用も交付金の対象となります。

Q I-6 追加で自治体独自で行うアンケート調査（主観指標）は、どの程度の回答期間を設けたらよいか、目安などはあるか？

- 標準的な回答期間など調査方法のルールは設けていません。

Q I-7 追加で自治体独自で行うアンケート調査（主観指標）は、どの程度の頻度で実施すればよいか、

目安などはあるか？

- 年に1回の実施が望ましいです。経年で推移を捉えることで、市民の Well-being の変化を把握しやすくなります。

Q I -8 ガイドブックの ActiveQoL という調査について、インスタント版とスタンダード版の2種類があるようだが違いは何か？

- ActiveQoL は、毎日の生活活動に対する満足度を、ウェアラブルデバイス等で測定し、活動の行われた場所に基づき、まちの実態を把握したり、新たに導入したサービスや施策の効果を検証する都市評価指標です。これを ActiveQoL[スタンダード版]と呼んでいます。
- ActiveQoL[インスタント版]では、スタンダード版の調査手法を簡素化し、アンケート調査によって直近1か月の活動を振り返って主観的な満足度を答えていただくことにより、精度や分析粒度は低いものの、まちを市民の日々の生活活動の視点から見られるようにすることを目的としています。
- 今回、Well-Being 指標(LWC 指標)に含めて公開するのは ActiveQoL[インスタント版]になります。
- ActiveQoL[スタンダード版]については、今後自治体や地域の協力の下、実証実験を計画しています。詳細は決まり次第、お知らせします。

Q I -9 ガイドブックのアンケート設問一覧表にある、追加補足設問とは何か？

- スマートシティ・インスティテュートが設定した補足アンケート設問です。市民の幸福感の向上の確認に活用いただけます。

【Well-Being 指標（LWC 指標）＜客観指標＞】

Q I -10 各 KPI の偏差値や各因子の指数は、どのように計算しているか？

- ダウンロードされるエクセルファイルに詳細を記載していますので、参照してください。

Q I -11 指定の Web サイトからダウンロードした Well-Being 指標（LWC 指標）客観指標データのうち、一部のデータが欠けているが、問題はないのか？

- Well-Being 指標（LWC 指標）の客観データは、開示されているオープンデータに基づいています。基本的に全基礎自治体を対象としていますが、抽出データによっては統計データが存在しないため、一部の自治体の客観データが取得できない場合もございます。その場合、自治体が保有する知見や独自のデータで補完いただくことも可能です。
- 一部のデータが欠けている状態でも分析は可能です。

Q I -12 環境共生指数、自然景観指数、都市景観指数など、〇〇指数とはどのようなものか？

- ガイドブックの P.22 に記載されている、算出方法をご参照ください。

Q I -13 Well-Being 指標（LWC 指標）の客観データは参考にはなるが、自治体の実態を表すにはデータが不十分ではないか？

- Well-Being 指標（LWC 指標）の客観データは、開示されているオープンデータに基づいています。自治体が独自のデータを保有される場合は、そのデータのご利用も可能です。

- データに不足感がある場合は、各自治体独自で補うことも可能です。

Q I -14 追加で自治体独自のアンケート調査（主観指標）を行う場合は、どのような方法（Web か郵送か）で実施すればよいか、推奨する方法はあるか？

- アンケート手法は、各自治体でのご判断となります。

Q I -15 RESAS とどう違うのか？

- 今回提供する Well-Being 指標（LWC 指標）の客観データは、市民の幸福感と暮らしやすさにフォーカスしたデータを選定しています。また客観データと合わせて、アンケート調査に基づいた主観データも提供します。
- RESAS は、産業構造や人口動態、人の流れなどのビックデータをマップで表示するシステムです。

Q I -16 Well-Being 指標（LWC 指標）とスマートシティ施策 K P I 設定指針との関係は？

- Well-Being 指標は市民の地域における暮らしや幸福度を測る包括的な指標です。また市民との対話等のコミュニケーションツールとしても利用できます。まちづくりやスマートシティにおいて、地域の暮らしやすさと幸福度についての現状を把握し、政策実施のインパクトを経年でモニタリングをしていくために使われます。スマートシティ施策の KPI 設定指針におけるサービス分野アウトカム第 3 階層は、具体的な施策・事業毎にその政策実現の到達状況をモニタリングする指標です。この指標には、具体的な施策に紐づくかたちで市民の暮らしやすさと幸福度に関する指標（地域幸福度指標を構成する因子の内容・指数の一部等）を含めることができます。各地域は、市民の暮らしやすさと幸福度を把握するためのデータの収集・分析をサポートするツールとして、地域幸福度指標なども活用しつつ、サービス分野アウトカム第 3 階層として、施策に沿った KPI を設定することができます。

https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/smartcity/index.html

II. Well-Being 指標（LWC 指標）の運用方法

Q II -1 Well-Being 指標（LWC 指標）の客観データを活用して、自治体のランキングを付けても良いか？

- Well-Being 指標（LWC 指標）の客観データは、自治体のランキング付けを目的としていません。Well-Being 指標（LWC 指標）の客観データは、都市の個性を更に磨く気付きの材料となり、それぞれの都市の特徴をグラフの形や数値から捉えていただくことを目的としています。

Q II -2 今回のデジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプ Type 2 / 3）には申請をしておらず、本市にとっては時期尚早かと思っています。そういった状況でも Well-Being 指標（LWC 指標）の活用はできるのでしょうか？

- 可能です。デジタル田園都市に係る取組を現在予定されていない自治体も、自治体の特徴の把握や市民の期待の可視化には Well-Being 指標（LWC 指標）の活用が役立ちます。

Q II-3 市民の Well-being を測るために、自治体として準備するデータはありますか？

- Well-Being 指標（LWC 指標）計測に当たり、自治体が新たにデータを用意する必要はありません。ただし公開された Well-Being 指標（LWC 指標）のデータに不足感がある場合は、各自治体独自で補うことは可能です。
- また、自治体内の地区毎に同様のデータを用意できる場合は、地区単位での分析も可能です。

Q II-4 Well-Being 指標（LWC 指標）を利活用する場合に、費用は掛かりますか？

- Well-Being 指標（LWC 指標）の暮らしやすさ指標と分析のツールは、デジタル庁が無償で提供します。
- ただし、主観アンケートの先行調査のサンプル数には限界がありますので、自治体毎に先行調査の結果をご利用いただく又は独自で主観アンケート調査を実施していただく必要があります。

Q II-5 市民が、より Well-Being 指標（LWC 指標）について深く理解するためにはどのような取組が効果的ですか。

- 市民の幸福感の向上に向けた課題やニーズ等を、行政職員だけでなく幅広く市民や関係者と話し合うことが重要です。ワークショップの開催なども効果的と考えられます。

Q II-6 Well-Being 指標（LWC 指標）を担当する職員も Well-being 等を学習する機会が必要だと感じています。Well-Being 指標（LWC 指標）を担当する職員向けの勉強会等は開催予定でしょうか？

- Well-Being 指標（LWC 指標）の説明動画を作成予定です。そちらをご活用ください。
- また行政運営をサポートいただける外部の支援者がいらっしゃれば、ご相談いただくことも可能です。
- スマートシティ・インスティテュートからのサポートを希望の方は、巻末の連絡先をご利用ください。

Q II-7 Well-Being 指標（LWC 指標）に含まれるデータの更新頻度はどの程度か？

- 原則、年に 1 回の更新を行います。ただし、オープンデータに基づく客観データの中には、複数年毎に更新されるものも含まれます。
- 詳細はガイドブックの Appendix の Well-Being 指標（LWC 指標）の各 KPI に関する説明をご覧ください。

Q II-8 行政以外にも使える人はいるのか？

- データのダウンロードはどなたでも可能です。民間の方にも、それぞれのまちの特徴を把握し、地域の課題に対するソリューションを構築する際に活用できます。

Q II-9 行政以外の人を使う場合のルールは。基礎自治体を経由した申請になるのか？

- データのダウンロードはどなたでも可能です。客観指標のデータは公表されますので、直接データを取り出して活用することが可能です。
- 自治体間の優劣の比較やランキング付けなど、目的外での利用は厳に慎んでください。

QII-10 Well-Being 指標（LWC 指標）はいつまで計測を続けなければならないのか？

- 市民の幸福感の向上を確認するためには、一定期間の推移の把握が必要です。また、交付金対象事業年度後の利活用を必ず求めるものではありませんが、指標の測定を継続的に実施していただくことにより、地域における取組が成功しているかどうか把握する参考にしていただきたいと思います。

QII-11 総合計画や総合戦略の指標や KPI とどのように整合を取ったらいいのか？

- 当該指標はあくまで本交付金事業を活用する自治体に対して活用を求めるものです。
- ただし、Well-Being 指標（LWC 指標）の活用の手順にある、Well-being に影響を及ぼす因子を探し出す過程など、総合計画や総合戦略の指標や KPI と同じ指標を選定することも可能です。
- Well-Being 指標（LWC 指標）を通じて総合計画や総合戦略の指標が、どのように市民の幸福感の向上につながるのかが可視化されます。

QII-12 サイトを活用して作成した図の著作権は誰に帰属するのか？

- Web ページで入手可能なグラフや図の著作権は、スマートシティ・インスティテュートに帰属します。
- ただし、図表を利活用される際に、データ出典として「スマートシティ・インスティテュート Well-Being 指標（LWC 指標）」と明記いただければ、ご自由に利用いただけます。

QII-13 近隣自治体や類似団体とランク付けされたくないが、方法はないか？

- 当該指標は自治体をランキング付けするためのものではない旨、周知を行います。

QII-14 当自治体は都道府県であるが、Well-Being 指標（LWC 指標）の活用は基礎自治体だけのものに見える。都道府県での活用はどのように進めたらよいか？

- 現状、Well-Being 指標（LWC 指標）は基本的に基礎自治体を対象としております。都道府県レベルでの活用方法については検討中です。現時点では、各都道府県において中心的基礎自治体（事業の中心となる自治体）を設定し、当該自治体の指標を活用することで代替をお願いしています。

III. LWC 指標を用いた分析・活用方法

QIII-1 ガイドブックは読んだものの、ダウンロードしたデータの分析方法が分からない。デジタル庁やスマートシティ・インスティテュートからサポートいただけないか？

- 自治体が主体的に分析を行うことを前提としていますが、行政運営をサポートいただける外部の支援者がいらっしゃれば、ご相談いただくことも可能です。
- Well-Being 指標（LWC 指標）の説明動画も作成予定ですので、そちらもご活用ください。
- 自治体の皆様に対しては、説明会・相談会を開催することも検討しております。またメールでの問い合わせは、常時受け付けております。ご不明な点等などございましたら sci-japan_lwci@murc.jp までお問い合わせください。

QIII-2 Well-Being 指標（LWC 指標）を活用するにあたって、IT やデータ分析などの特別なスキルは必要か？

- 特別なスキルは必要ではありません。各自治体でお持ちの知見をご活用いただき、Well-Being 指標

(LWC 指標) から評価の背景を推測し、市民の課題 (問題意識や期待) やニーズを考えることが重要です。

QⅢ-3 Well-Being 指標 (LWC 指標) を活用するに当たって、常に同じ因子だけに注目すべきか。

- 特定の因子を定点観測することにより幸福感の向上の状況を把握することが可能になります。ただし他に注目すべき因子が出てきた場合などは、柔軟に因子の追加や入れ替えも可能です。

QⅢ-4 Well-Being 指標 (LWC 指標) の結果と地域での実情とが合っていないように感じるが、なぜか？

- 地域の実情との乖離の原因として、以下の点が考えられます。
 - 1) 地域の実情を把握する適切な客観データが見つからない可能性があります。
 - 自治体を持っている独自の客観データを追加することが可能です。
 - 2) 主観データが不足している可能性があります。
 - 自治体で独自でアンケート調査を実施することが可能です。
 - 3) 地域の実情 (市民の主観的感覚や客観的な生活環境) が変わってきている可能性があります。
 - 経年的な変化を比較することで分析が可能です。

QⅢ-5 他の自治体の Well-Being 指標 (LWC 指標) の活用事例を教えてください。

- 先行自治体の事例はガイドブック内に掲載しているので参照してください。今後も随時追加していく予定です。

QⅢ-6 外的要因によって KPI 指標数値が下がる場合もあると思うがその場合の考え方は？

- 数値は下がることもあり得ますが、下がった原因について、データを使って分析していただき、対策を考えていただくことが大切だと思います。

QⅢ-7 公開された Well-being のアンケート調査を独自に行う予定はないが、客観指標のみを使用して分析することは可能か？

- 可能です。ただし、主観指標も加えて分析できれば、市民の幸福感の実態把握には効果的です。自治体独自のアンケート調査結果をお持ちの場合は、その活用をお勧めします。

QⅢ-8 自治体の独自調査項目を指標に使いたい場合は、どのようにしたらよいのか？

- 今回公表する指標は全国共通での利用を前提としていますが、各自治体の実情に合わせた独自項目は、適宜追加いただいで構いません。

QⅢ-9 サイトに、複数回の指標を比較 (Well-Being 指標 (LWC 指標) が改善されているかを経年で計測) する機能はあるか？

- 6月に公開するサイトにはその機能はありません。今後、時系列での表示を含め様々な機能の追加を検討していきます。機能を追加次第、順次公開し、お知らせしていきます。

QⅢ-10 当自治体はデジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプ Type 2 / 3）自治体に採択された。しかしながら LWC 指標ガイドブックにある人口コホート分析に当自治体がない。どのように分析すればよいか？

- 人口規模が比較的小規模な基礎自治体では、市民が基礎自治体をまたいだ生活圏を形成していると想定しています。このため、当面ピア都市はガイドブック P.33 のうちの「人口規模及び産業構造が類似している自治体」や「近隣自治体」を参考に探してください。

IV. 交付金について

QIV-1 デジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプ Type 2 / 3）自治体に採択され自治体が、デジタル庁より公開したアンケート項目を活用して自治体独自で取得したデータ（取得・集計したアンケート結果は）を、公表のタイミングは令和 5 年 3 月末まででよいか？

- 令和 4 年度分については、令和 5 年 3 月末までに自治体ホームページで公表にさせていただくことを想定しています。詳細なスケジュールについては、決まり次第別途お示しします。

QIV-2 Well-Being 指標（LWC 指標）主観指数（アンケート調査）に交付金を活用する場合、何を対象経費としてよいか？

- 交付金は交付決定した内容に基づき支出してください。疑問がある場合はお問い合わせをお願いします。

QIV-3 Well-Being 指標（LWC 指標）で測定された市民の幸福感が向上しないと、交付金返還を求められるのか？ KPI がよくなると交付金返還になるのか？

- Well-Being 指標（LWC 指標）で測定された市民の幸福感の向上が確認できない場合でも、交付金の返還は求めません。ただし、結果の開示は求められます。
- 測定結果はあくまで地域内における取組やデジタル田園都市国家構想に係る取組の評価に活用いただくことを想定しており、事業評価に組み込むことは想定していません。

QIV-4 新たに自治体が独自で行う Well-Being 指標（LWC 指標）のアンケート調査やその分析などを、事業者へ委託してもよいか？

- 可能です。

<改定履歴>

2023 年 4 月 ・Q I -16 を追加（P6）

・免責事項（ディスクレーマー）の追記

<Liveable Well-Being City 指標[®]のご利用に際しての注意事項>

- Liveable Well-Being City 指標[®]（以下、LWCI[®]）は、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を可視化する指標として、一般社団法人スマートシティ・インスティテュート（以下 SCI-Japan）が作成・開発したものです
- LWCI[®]並びに暮らしやすさの客観指数（個別指数、カテゴリ別指数）、Well-Being アンケート調査票並びに全国調査の回答データ、利活用ガイドブック・地域の幸福シナリオ事例集・Q&A 分析用テンプレートその他の資料、説明動画等に関する著作権などのご利用に際しては、以下の各事項をご理解いただいたうえでご利用ください。
 1. LWCI[®] は、SCI-Japan によって独自に作成・開発された手法によって算出される著作物であり、SCI-Japan は、LWCI[®] 及びその関連著作物（以下、LWCI 等）、並びに LWCI を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。
 2. LWCI[®] に関する商標権は、SCI-Japan に帰属しています（2022 年 12 月、登録第 6654516 号）
 3. 著作権法の定めに従い、LWCI 等を引用する際は、必ず、出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「Liveable Well-Being City 指標[®]」と明記してください。
 4. 著作権法上の「私的使用」や「引用」の範囲を超えて LWCI 等を使用する場合には、SCI-Japan や当該コンテンツの著作権者の使用許諾（原則、有償）が必要となります。
 5. LWCI 等を許可なく複製、編集、翻訳、翻案、放送、出版、販売、貸与、公衆送信などに使用することはできません。
 6. LWCI 等を許可なくブログやニュースグループ、メーリングリスト、電子掲示板などに掲載することはできません。
 7. SCI-Japan は、LWCI を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延又は中断に関して、責任を負いません。
 8. SCI-Japan は、LWCI の計算方法など、その内容を変える権利及び公表を停止する権利を有しています。
 9. LWCI 等は、信頼できると思われる各種公開情報、オープンデータ等に基づいて作成されていますが、SCI-Japan はその正確性、完全性を保証するものではありません。
 10. LWCI 等に基づくご利用者様の決定、行為、及びその結果について、SCI-Japan は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、ご利用者様ご自身でご判断くださいますようお願いいたします。
- お問い合わせ先：SCI-Japan/LWC 指標事務局（sci-japan_lwci@murc.jp）